

▲投稿 用紙隨意左の所に送らるべし

伊勢國河藝郡稻生村 みどり短歌會内

眞宮 起雲宛

記者白す、眞宮先生は、特に本會員及本誌購讀者のために、和歌の選評をやつて下さることになつて居ます。斯道に志のある方は申すまでもなく、今から入門しようといふ方も奮つて御寄稿なさつて、お互に、清い樂としようじやありませんか。

多摩川の川上なる鶴の湯に
まかりける時よめる

埼玉桑田良隆

老しらぬ鶴のいでゆにゆあみして千歳の飾われも重ねん
寢覺めては雨かとはかり谷川の岩にせかるゝ音を忘れて

夢ひやにて

知らぬ事は知らぬといひてうなわ子のかさるゆのなきそうれしき
折にふれて

外國のふみはよむとも皇國の正しき道は忘れさらなん
思ひやれ支那のあら野に武夫かつゝを枕に明す夜毎を

フレーベル會俳句端書集

- 一、課題 當季雜吟一人十句以下
- 一、締切 毎月二十五日限り
- 一、披露 翌々月本誌上
- 一、賞品 天地人三座には景品を呈す
- 一、撰者 當分本會の撰とす
- 一、投稿 本誌購讀者は何人にてても投吟する事を
得用紙は繪葉書に限り(眞筆刷物隨意)
住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛
にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零宛